

わ よ ほ る

No.28

みんなで楽しく気軽にちよつとずつのボランティア



おいしいお弁当作ってます
配食サービス青い鳥



フレグランス大刀洗でおはなし会
ナレーションサークル風



はじめて海でキャンプしたよ!
めだかの楽校



子ども見守り中!! 「いってらっしゃい」
子ども見守り隊



ちやおの七夕会
ちやお²

災害ボランティア講座に
参加して

人の絆と地域のか

居安思危^{こあんしき}

く安きに居りて危うきを思うく

■講師：NPO法人 いいがた災害ネットワーク
理事兼事務局長 李 仁 鉄 氏
■平成24年7月23日(月)
■ドリームセンター・展示ホール
■参加者：151名



平成24年7月の九州北部豪雨によってわが大刀洗町でも大堰の床島・菅野・西原地区等で家屋の床上・床下浸水の被害もあり、さらに避難勧告の出された地区もあって、農作物など相当の被害を受けたようです。

そんなおり、「人の絆と地域のか」というテーマで災害ボランティア講座が開催され、昨今の災害を事例に被害を受けた地域のボランティア活動の在り方と実践活動の進め方の話がありました。

例えば阪神大震災では、救助された人の95%が、自力・家族・友人知人によって助けられたそうです。これは、発生時、自分

の足で行ける範囲・見渡せる範囲での活動が大事であること、救助・救護・救命など、自助や互助による助け合いは、現場の状況を把握し、判断できる地域の人がいれば、かなりの確率で被害を抑えられることを物語っています。

普段の暮らしの中での支えあい

私たちは、それぞれがいろいろな災害に対して「起きてから」

ではできない様々な活動や取り組みを日々の暮らしの中に取り入れて備えることが大切です。

具体的には、このような講座に参加して意識を高めること、また、地域の行事や奉仕活動に参加して、自分の住んでいる地域の状況を把握し、お互いのつながりを深めていく、これがまさに人と人との絆を強め、地域のかがついてきて、わが町大刀洗が住みよくなっていく事だと思いました。

(スマイルM・T)



ほっこり井戸端サロン



視覚障害「見えないってどんなこと？」



7月28日、ロンドン五輪開催日と同じくしてオープンした「ほっこり井戸端サロン」。身近な福祉について、関係する人や支援する人にさっくばらんに話を聞くなど、みんなで気楽に、何でも話し合える場所作りが、この「サロン」のコンセプトです。当日は、予想を超える参加者で、スタッフのドタバタ振りを露呈！初めての試み、初めての体験でしたので、皆様にはこ

迷惑をおかけしたかも…今回は、視覚障害者の原謙二さんをゲストにお招きして、原さんがベーチエット病を発症して視力を失うまでの苦悩や、失明してからの生活、そしてこれからの夢など、いろいろお話していただきました。どんな時も前向きに、ご自分の人生を切り開いてこられた原さん、その努力と強い精神力は、どこから産まれて来るのかと、驚くばかりです。「人間は可能性のかたまり、ひとつ何かを失っても、それに代わるものが必ず見つかる」原さんに多くの事を学んだひとときでした。いろいろな人と知り合い、対話することで、お互いを理解し、つながってゆく、絆が



うまれる、そんな「サロン」を目指しています。

あなたも、ここでしか会えない人、ここでしか聞けない話に会いに来ませんか。

これからの予定

9月29日(出) 「耳の不自由な生活について」

11月24日(出) 「障害を持って生きる」

1月19日(出) 「誰もが安心して暮らせる町って?」

場所 ぬくもりの館 午後1時30分より

四ヶ所啓二さんを偲んで

大堰アンビシャス広場代表 平田 美穂

「四ヶ所啓二さんを偲んで」という原稿依頼をいただきましたが、正直まだ亡くなられた実感がありません。アンビシャス広場の事で迷うと、「啓二さんに聞いてみよう」と、思わず携帯電話を握ってしまいます。先日の「田んぼリンピック」でも、テントの真ん中に、啓二さんがでんと座っていらっしやるようで、まだまだ啓二さんの存在を深く感じています。私たちボランティアは、つい子どもたちに、これをさせたい、あれもさせたい…と大人目線で考えてしまいます。そんな時啓二さんは、いつも私たちに問いかけてくれました。「広場で子どもたちは何をしたいのかな、広場は学校でもない、塾でもない、子どもたちの自由な



※四ヶ所啓二氏は、平成13年にボランティア連絡協議会を立ち上げ、町のボランティア発展の為、力を尽されました。

居場所作りの空間だよ」この思いが、12年間、広場を続けてこられた原動力となりました。今も、私の心に啓二さんの問いかけが、あの笑顔と共に聞こえてきます。啓二さん、本当にありがとうございました。これからも広場を見守って下さいね。

私のボランティア日記

見守り隊の活動で思う事

見守り隊隊長 安丸 しづえ

私は、山隈の点滅信号のある5差路の交差点で活動を始めて2年目になります。ここは点滅信号があるにも関わらず、朝の出勤に急ぐ車が多く、児童の横断は厳しいものだと感じています。この交差点を通る児童は50数名いますが、まずは児童の安全を最優先と考えて横断を見守っています。

見守り隊をして嬉しいことは、子どもさんと何処で会っても、声かけをすると応えてくれることです。また、年度末の歓送

迎会の席に招待され、卒業される6年生の子どもさんから感謝の言葉の色紙をいただいて、とても嬉しかったです。他県に住んでいる私の孫も、地域の皆さんに助けられて学校に通っておりますので、私も出来る事をしようと、見守り隊に入りました。

見守り隊の最初の申し合わせは、「自分の都合のよい日、時間に活動する。名札をかけて活動する。不審者、不審車両を見かけたら、学校、警察

への連絡をする。」です。出来る人が出来る時間を利用してのボランティア活動。お陰で私自身、毎日の起床時間も一定して、健康にも一役かっています。また、自分自身も健康でないと続けられないと思います。



ボランティアセンターでは、ボランティア活動をしたいと思っている人、ボランティアの手助けを必要としている人の情報をお待ちしています。ボランティアに関する情報は、社協ホームページからご覧いただけます。

URL <http://www.tachi-shakyo.or.jp>

大刀洗町ボランティアセンター

TEL 77-4877 FAX 77-6220

今号より誌面もスマイルメンバーもリニューアルしました。読者の皆さんもフレッシュな気分でご覧ください。

編集スタッフ



スマイル

代表 福村 宮生
福村 千代美
松本 哲雄
矢ヶ部 美夕紀